

## 2017 実習前期レポート

わたしは四月から日本語教育実習をおよそ3か月の間、ウィンチェスター大学からの留学生4人に向けて行った。長いようですぐに過ぎた3か月間だった。日本語教育実習の幕開けとなる彼女たちへの日本語教育は自分の教育技術を大いにスキルアップさせた。

一番大きく変化したことは授業後の振り返りで自分の反省や、仲間の授業の良いところや改善したほうが良い点などを考え、意見を述べることができるようになったことだ。わたしは毎回の授業の反省をその日自分が作成し授業内で利用したプリントや仲間が使用したプリントにたくさん記入した。このメモをもとに次の授業を改善していくように努めた。その内容は授業の内容から授業担当者の行動まで細部にわたるものだった。2年生の後期の日本語教育方法論演習Ⅱの授業内で日本人学生相手に行った模擬授業では発見できなかった授業の反省点が今回の実習ではたくさんあげられた。例えば、前者では主に教師の指名の仕方やアイコンタクトが反省点として挙げられていたが、後者では学習者に無駄な時間を与えないような工夫や学習者の興味をひかせるような工夫が振り返りの時間に挙げられた。また今回の授業の3か月の序盤では自分の授業を時間内に終わらせることで精一杯で他の仲間の授業を見る暇なんてなかった。中盤、終盤へと経験が積み重なっていく中で、だんだん鋭い質問や自分が予期していない点に着目していくように成長していった。仲間視点で注意されて自分自身で気づけなかった点が最後には自ら授業を振り返って反省に気づくことができるようになっていった。私たちひとりひとり前回の授業での振り返りをしっかり踏まえて次は良いものにしようとして努力していた。授業の数を重ねていく中で自分の授業を客観視できるようになり、それだけ落ち着いて教室活動を行うことができるようになったと思う。

わたしたちの授業はできるだけ日本語を使わせる機会を増やす授業だった。DVDをみたところ学習者が発表するとき一文を読むのに苦労していたように思えた。授業の反省の中で学習者が単語は言えるが文で言わせる活動をしていないことを指摘されてその練習を積極的に取り入れるようにした。最初のころは一文を読ませるのに学習者がつまづいているも、そのまま流してしまった。学習者の立場からするとしっかり練習できる時間が必要だったと思った。そこで文を短く区切って何度も何度も言わせる練習に乗り換えた。学習者は言いづらそうにしていたが練習を積み重ねることによってスムーズに言えるようになった。この練習が学習者にたくさんの日本語を言わせる練習にも、文で言わせる練習にもなった。そしてこの活動をさせる自分も自信を持って何度も言わせる重要性に気が付いた。

振り返りの時間にとったメモを見る限り、授業を重ねるにつれてだんだんと専門性の高い反省が見られるようになった。ここでは学習者が授業中で話してしまう点について細かく反省しようと思う。自分の授業でも仲間の授業でも学習者が学習者同士で話し合っていた時間が多く見られた。学習者同士で話すのは教師の指示が伝わっていないとき、つまり

ないとき、知識や関心があるときと学んだ。この実習ではつまらないときに話すというのはあまり見られないように思ったが、教師の指示が伝わっていないことは多くあった。私たちはできるだけ学習者たちに日本語を使う時間を増やすために英語を使わず、日本語で説明するよう努力した。その方法の例としては絵やジェスチャー、動画を見せることで言葉を説明した。しかし学習者が覚えていない言葉や知らない言葉が出たときは教師が一生懸命に説明しすぎて言葉が多くなる事態が多々あった。学習者側は質問に対して多くの言葉を持って説明されたので困惑していた。このような事態を防ぐために自分で学習者に簡単な日本語を使って説明できる語彙力が必要だと感じた。言葉での説明だけでなく、実際のものや絵を使ってあらわすことがとっさに行うことができる柔軟性も必要である。学習者の中には私たちの伝えたいことをしっかりつかみ取ってくれる者もいたが、現実的には厳しいことのほうが多いだろう。だからこれからは簡単な日本語で視覚的にわかるように説明をし、できるだけ学習者が他の学習者に説明を求めるような時間を与えないようにしたい。

今まで3か月間授業を通してきたが自分にとって毎回の授業が一週間のうちの大きな要となっていた。それほど教師の準備が大変で数を重ねなければならないと実感した。自分は授業の準備が苦手だということが分かった。月曜から早めに取り組むも結局授業内容が決定したのは授業1日前くらいだった。授業の準備をしようと試みるもののようにすれば学習者に飽きない授業になるのか、これでは授業時間が短すぎるではないか、どのように発展させようかとかなり悩みながら授業の準備をしていた。結果的には何とか間に合うようだったが自分の中ではかなり限界の状態が多かった。次回の実習ではさらに大人数でより大きな教室で長い授業を担当する。今回の実習では得られなかった経験を得るだろう。また同時にそこで失敗したことは今回の実習で失敗したことよりももっと記憶に残ると思う。自分も学習者にとっても満足いく実習にしたい。授業までの間の時間を有効に利用できるように計画を練ることを目標にする。

これからの抱負は学習者に説明するときは落ち着いて視覚的な情報提供を心がけることと授業考案までの時間の使い方を計画することである。後期からの実習では今までの失敗や成功をもとに仲間とともに励ましあいながら、また振り返りをしながら一回一回の授業を大切にしたい。